

情報革命で人々を幸せに



2023年7月

ソフトバンクグループ株式会社(東証プライム市場 9984)

## 免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社(以下「SBG」)及びその子会社(以下SBGと併せて「当社」)並びに関連会社(以下当社と併せて「当社グループ」)に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものではありません。

また、本資料は、Arm Limitedが発行する証券の購入または応募の申込み、またはその勧誘を構成するものではありません。あらゆる証券の購入または応募の申込み、またはその勧誘は、1933年米国証券法(改正法も含む)およびその他の適用証券取引関連法令に従い登録制に基づき行われます。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績を保証するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBGの重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SBファンド(下記で別途定義)並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBGのホームページの「事業等のリスク」([https://group.softbank/ir/investors/management\\_policy/risk\\_factor](https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor))をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依拠してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測若しくは予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業(SBファンドの投資先を含みますが、これに限られません。)に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

本資料には、Arm Limitedに関する記述が含まれています。これらの記述は、SBGの株主への情報提供のみを目的としたものであり、Arm Limitedが発行するあらゆる有価証券の販売又は購入の勧誘を目的としたものではありませんし、そのように解釈されるべきではありません。

## 商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

## 重要なお知らせ—SBGの普通株式の取引、スポンサーなしADR(米国預託証券)に関する免責事項

SBGの普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBGの開示は、スポンサーなしADR(以下「ADR」)の取引の促進を意図するものではなく、ADRの取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBGは、SBGの普通株式に関するスポンサーなしADRプログラムの設立又はそれに基づき発行されるADRの発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBGは、ADR保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBGが1934年米国証券取引所法(以下「証券取引所法」)で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBGのホームページに、SBGが証券取引所法ルール12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づくSBGの普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG及び当社グループは、SBGの普通株式を表象するスポンサーなしADRに関連して、ADR保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社やZホールディングス株式会社などの、スポンサーなしADRプログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

## 本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又はSB Global Advisers Limited(以下「SBGA」)、SB Investment Advisers (UK) Limited(以下「SBIA」)及びそれらの関係会社を含むSBGの子会社(以下併せて「SBファンド運用会社」)により運用されるいずれかのファンド(文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて「SBファンド」)のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SBファンドは、他のファンド同様、SBIAとその関係会社によって運用されているSoftBank Vision Fund L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド1」)、SBGAとその関係会社によって運用されているSoftBank Vision Fund II-2 L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド2」)及びSBGAとその関係会社によって運用されているSBLA Latin America Fund LLC (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」)を含みます。

SBファンド(ビジョン・ファンド1及びビジョン・ファンド2並びにラテンアメリカ・ファンドを含む)、SBファンド運用会社、SBファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるにもかかわらずこれを表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報はSBファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又はSBファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SBファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連するSBファンド、本資料に言及されるその他のファンド又はSBファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SBファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連するSBファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SBファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連するSBファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載されるSBファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連するSBファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因(例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。)に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連するSBファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつかの要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連するSBファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SBファンド又はSBファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各SBファンド又は関連するSBファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SBファンド運用会社、SBファンドのポートフォリオ会社、SBファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又はSBGが、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBGA及びSBIAは、ビジョン・ファンド1、ビジョン・ファンド2及びラテンアメリカファンドの運用に関して、相互にSBGからそれぞれ別個独立した業務プロセスを採っています。SBGA又はSBIAによって運用されるSBファンドは、それぞれSBGA単独又はSBIA単独で運用されています。

# 会社概要

(2023年3月末)

商号	ソフトバンクグループ株式会社
設立年月日	1981年9月3日
本社所在地	東京都港区海岸1-7-1
代表取締役会長 兼 社長執行役員	孫 正義
連結従業員数	約6.3万人
証券コード	東京証券取引所 プライム市場(9984)
単元株式数	100株

株価 6,773円

時価総額 10.0兆円

格付 (長期発行体格付)

日本格付研究所  
(JCR) A-

S&P BB

※ 株価および時価総額:2023年6月30日終値を使用。







# 情報革命で人々を幸せに



# ソフトバンクの事業変遷ーグローバルな投資持株会社に

変わらぬビジョン:「情報革命で人々を幸せに」

事業会社

投資持株会社

孫正義がソフトバンクを  
立ち上げ。名前の由来  
は”ソフトウェアの銀行”



PCソフトの卸売業  
1981年創業



パソコン時代の  
到来

1996年:ヤフー事業開始  
2000年:アリババへの投資



インターネット・ブロードバンド事業  
1996年～2005年



日本のブロードバンドの  
普及をサポート

2001年:Yahoo! BB  
ADSL事業開始  
2004年:日本テレコム買収



2005年:  
ホークス買収



2008年:  
iPhone発売  
(日本初)

2006年:  
ボーダフォン  
ジャパン買収

SoftBank



モバイルブロードバンド  
2006年～2014年



モバイル事業を通じて  
生活を豊かに

2014年:  
アリババグルー  
プ上場



2013年:  
米国スプリント  
買収

2016年:  
英国半導体設計大手  
アーム買収



2018年:  
SBKK上場

SoftBank

2020年: スプリント、  
T-モバイルと合併



2017年:SVF1始動  
2019年:SVF2始動

SVF1

SVF2

Data and AI  
2015年以降



AI革命の  
実現に向けて



# 事業セグメントおよびグループ企業

## 幅広い業種・地域に展開する企業群

2023年3月末現在  
★印は上場企業



★  
 **Alibaba Group**  
阿里巴巴集团  
(中国でのEC)

★  
 **T-Mobile**  
★  
 **T..**  
(ドイツテレコム)  
(米国や欧州での通信事業)

ファンドによる投資先例

★  
 **coupang**  
(韓国でのEC)

★  
 **ByteDance**  
(TikTokの運営等)

★  
 **DOORDASH**  
(フードデリバリー)

★  
 **SoftBank** KK

★  
 **PayPay**

★  
**Z HOLDINGS**

★  
 **YAHOO!** JAPAN

★  
 **LINE**

★  
 **ZOZO**

★  
 **ASKUL**

**arm**  
(半導体設計)  
上場に向け準備中

**SoftBank HAWKS**  
FUKUOKA

Zホールディングス(ZHD)、ヤフー、LINEおよびZHDの完全子会社2社は、2023年10月1日付でZHDを存続会社として統合再編し、社名がLINEヤフーとなる予定です。7

# 2022年度

ロシアによるウクライナ侵攻



米中摩擦の深刻化



金融システム不安(SVB・クレディスイスなど)



環境激変の中、  
どのように  
対応したか

「守り」の1年



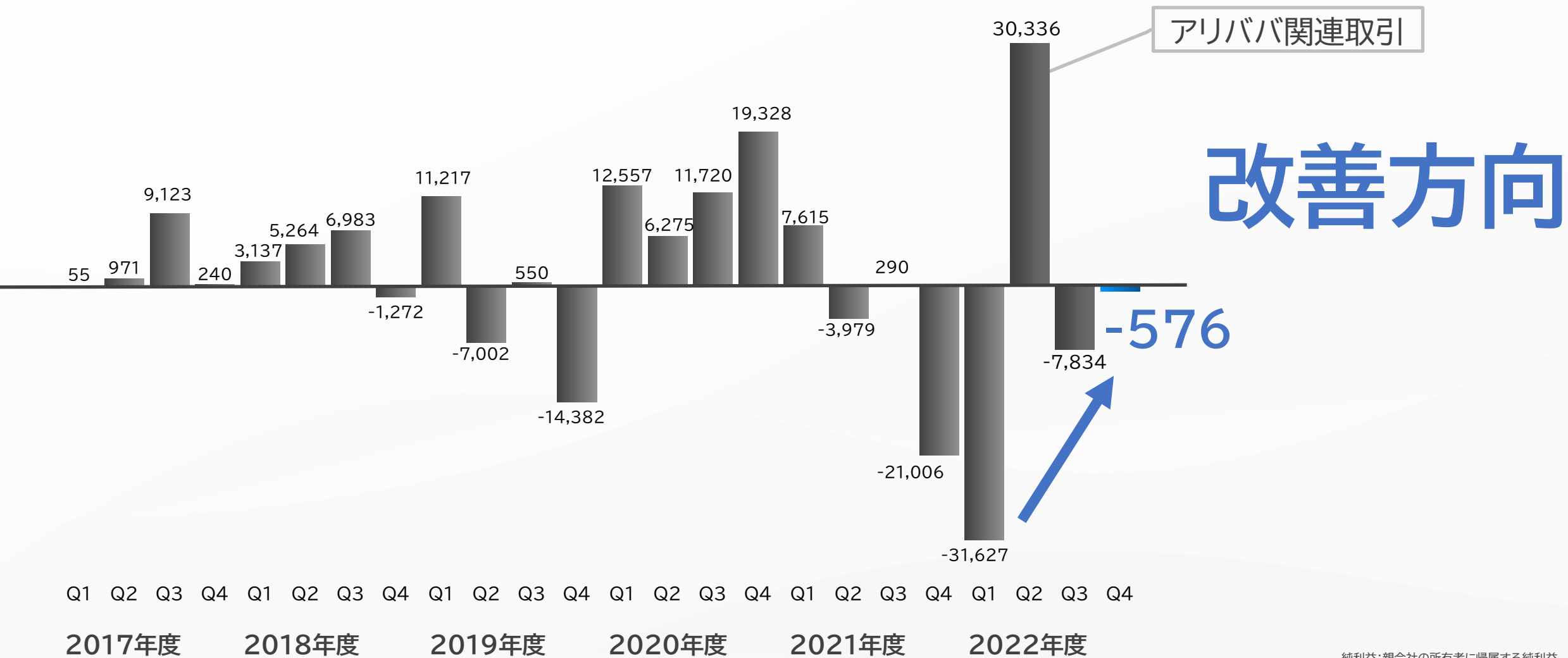
# 連結業績

(億円)

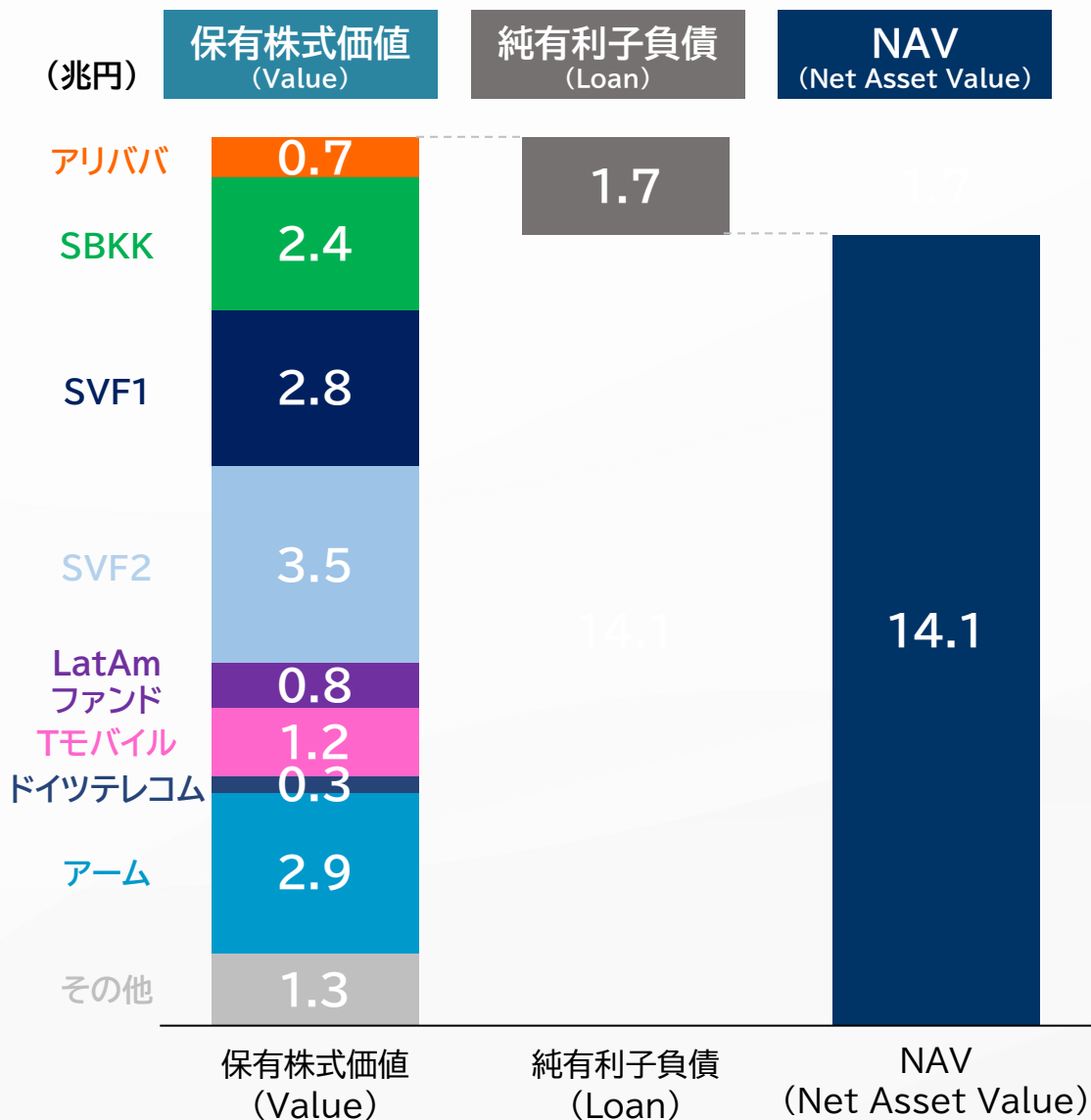
	2021年度	2022年度	増減額
売上高	62,215	65,704	+3,489
投資損益	-34,347	-8,351	+25,997
税引前利益	-8,696	-4,691	+4,004
純利益	-17,080	-9,701	+7,379

# 純利益 (四半期)

(億円)



# NAVとLTVの関係



**NAV**  
(Net Asset Value、時価純資産)

$$= \text{保有株式価値 (Value)} - \text{純有利子負債 (Loan)}$$

**LTV**  
(Loan to Value、純有利子負債／保有株式価値)

$$= \frac{\text{純有利子負債 (Loan)}}{\text{保有株式価値 (Value)}}$$



# 重要指標の変動 (2022年度)

2022年3月末

2023年3月末

NAV  
(時価純資産)

18.5兆円

14.1兆円

LTV  
(純負債 / 保有株式価値)

20.4%

11.0%

手元流動性

2.9兆円

5.1兆円

詳細は、2023年3月期 決算説明会プレゼンテーション資料Appendixを参照  
手元流動性: 現金及び現金同等物 + 流動資産に含まれる短期投資 + コミットメントライン未使用枠。SBG単体ベース(SB Northstarを除く)

# 重要指標の変動 (2022年度Q4)

2022年12月末

2023年3月末

NAV  
(時価純資産)

13.9兆円

14.1兆円

LTV  
(純負債 / 保有株式価値)

18.2%

11.0%

手元流動性

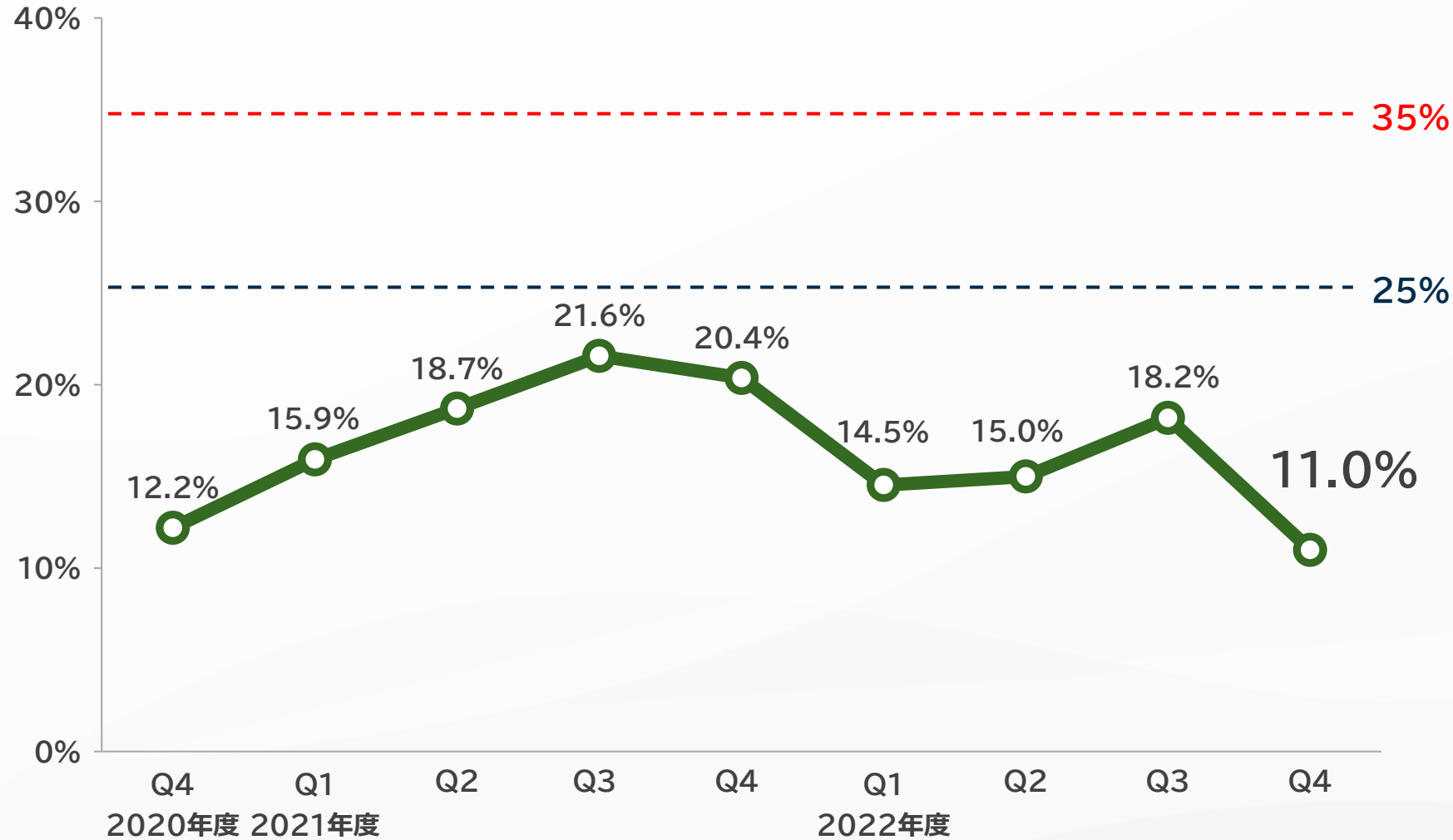
3.8兆円

5.1兆円

詳細は、2023年3月期 決算説明会プレゼンテーション資料Appendixを参照  
手元流動性: 現金及び現金同等物 + 流動資産に含まれる短期投資 + コミットメントライン未使用枠。SBG単体ベース(SB Northstarを除く)

# LTVの推移

アセットバック・ファイナンス除く

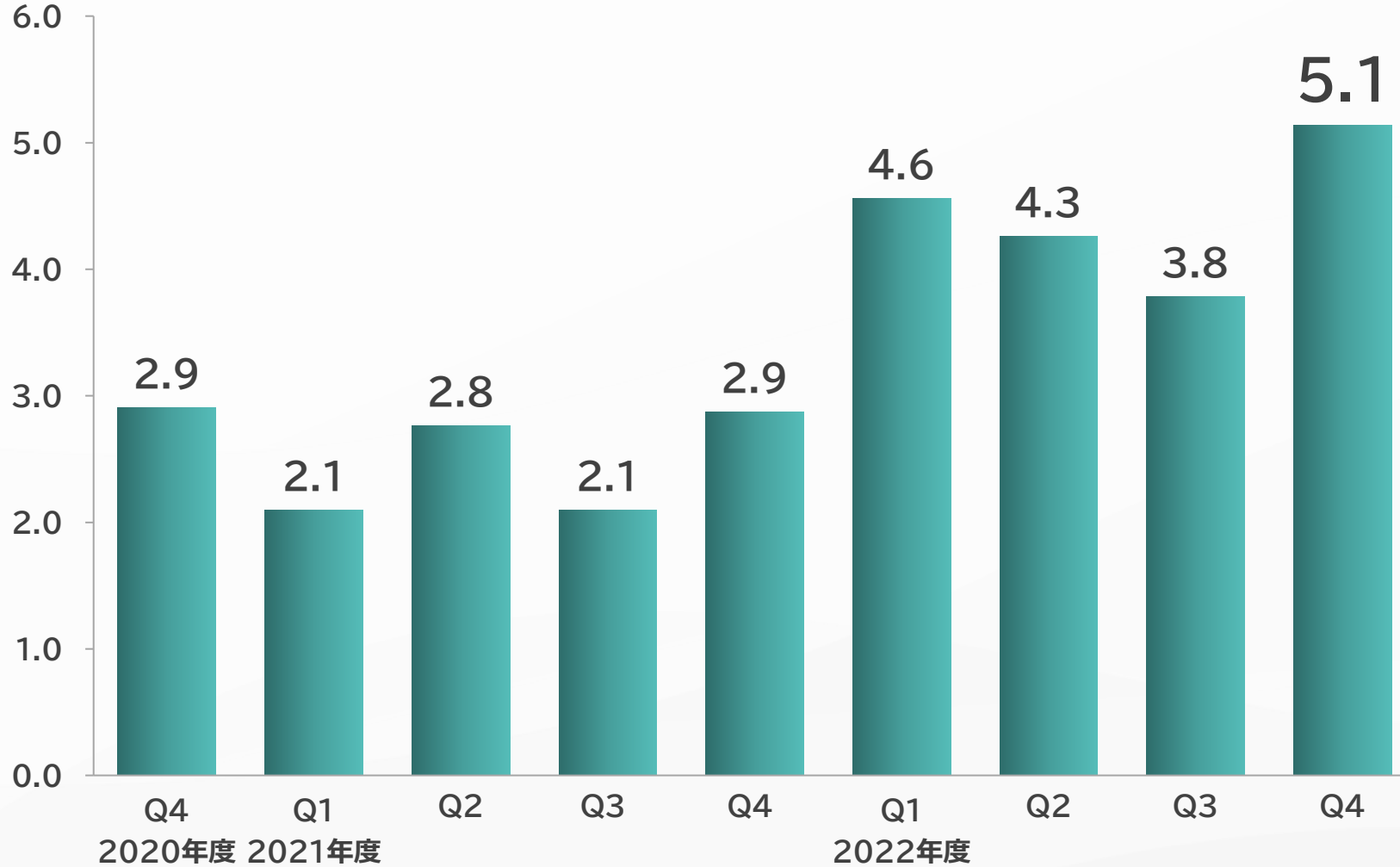


大幅に改善



# 手元流動性の推移

(兆円)



大幅に増加し  
5兆円超に

# 手元流動性と社債償還スケジュール

## 手元流動性

5.1 兆円\*1

6,498

コミットメントライン未使用枠\*2

44,865

Mar 2023

## 社債償還スケジュール

(億円)

今後2年間の社債償還(1.5兆円)

8,037

Apr 2023  
- Mar 2024

1年後

6,896

Apr 2024  
- Mar 2025

2年後

9,994

Apr 2025  
- Mar 2026

3年後

10,897

Apr 2026  
- Mar 2027

4年後

\*1 現金及び現金同等物+流動資産に含まれる短期投資+コミットメントライン未使用枠。SBG単体ベース(SB Northstarを除く)

\*2 2023年3月末時点のコミットメントライン総額6,498億円相当は全額未使用

# 当社の個人向け社債

## 個人投資家向けに3種類の社債を発行

	普通社債	劣後社債	ハイブリッド社債
回号	第58回	第5回	第6回
発行日	2022年12月16日	2022年2月4日	2023年4月28日
発行時利率	2.84%	2.48%	当初5年 4.75% 以降、変動金利
流通利回り*1	2.66% (残存年数:6.5年)	3.51% (残存年数:5.6年)	4.66%
年限	7年	7年	35年ノンコール5年
弁済順位*2	普通社債 > 劣後社債 > ハイブリッド社債		
格付上の資本性	なし	なし	調達額の50%

\*1 2023年6月26日終値時点  
\*2 上位債務が満額弁済されたのちに、下位債務の弁済が可能



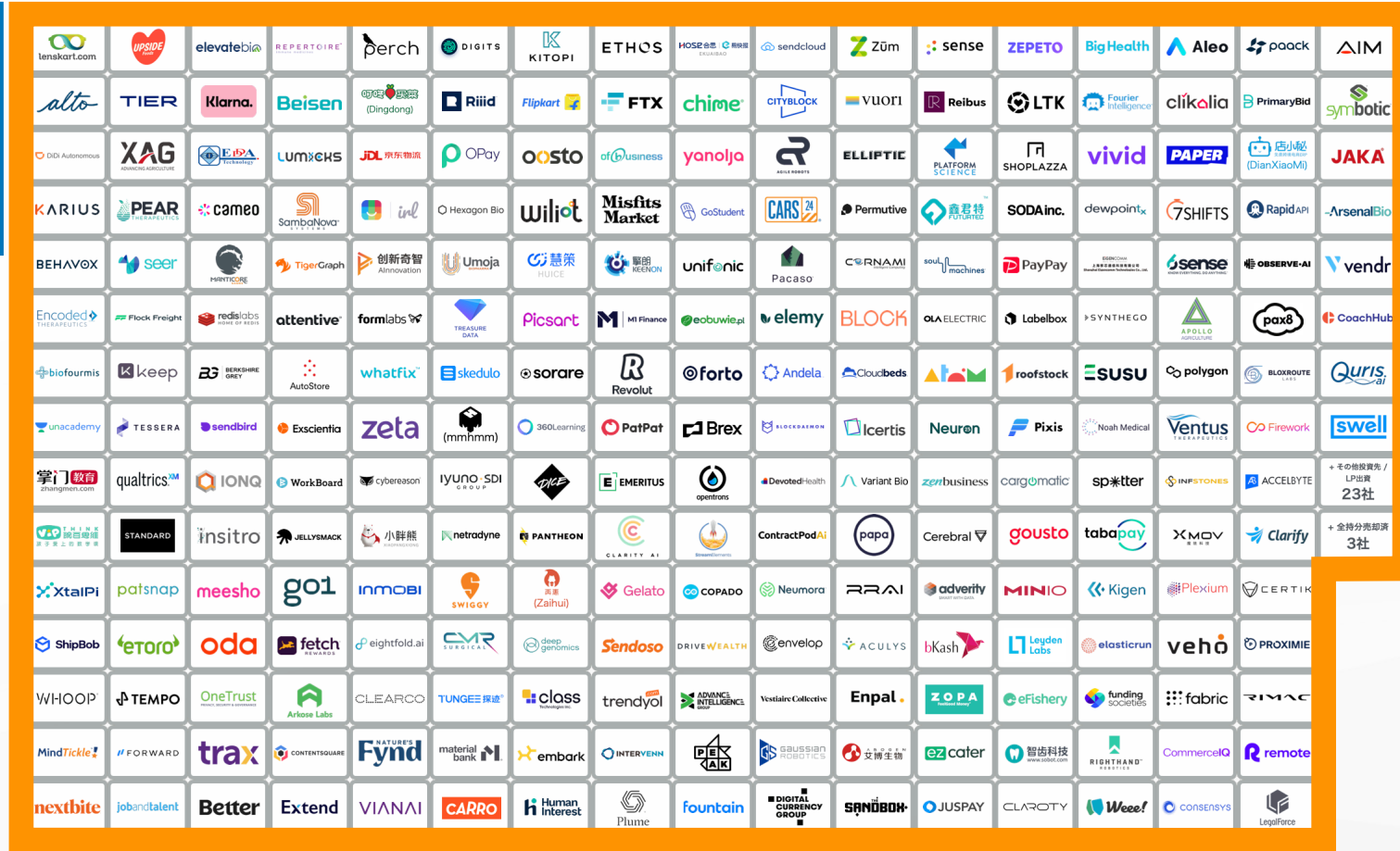
# SoftBank Vision Fund

## 473社

### SVF1 (94社)



### SVF2 (274社)



### LatAm Funds (105社)



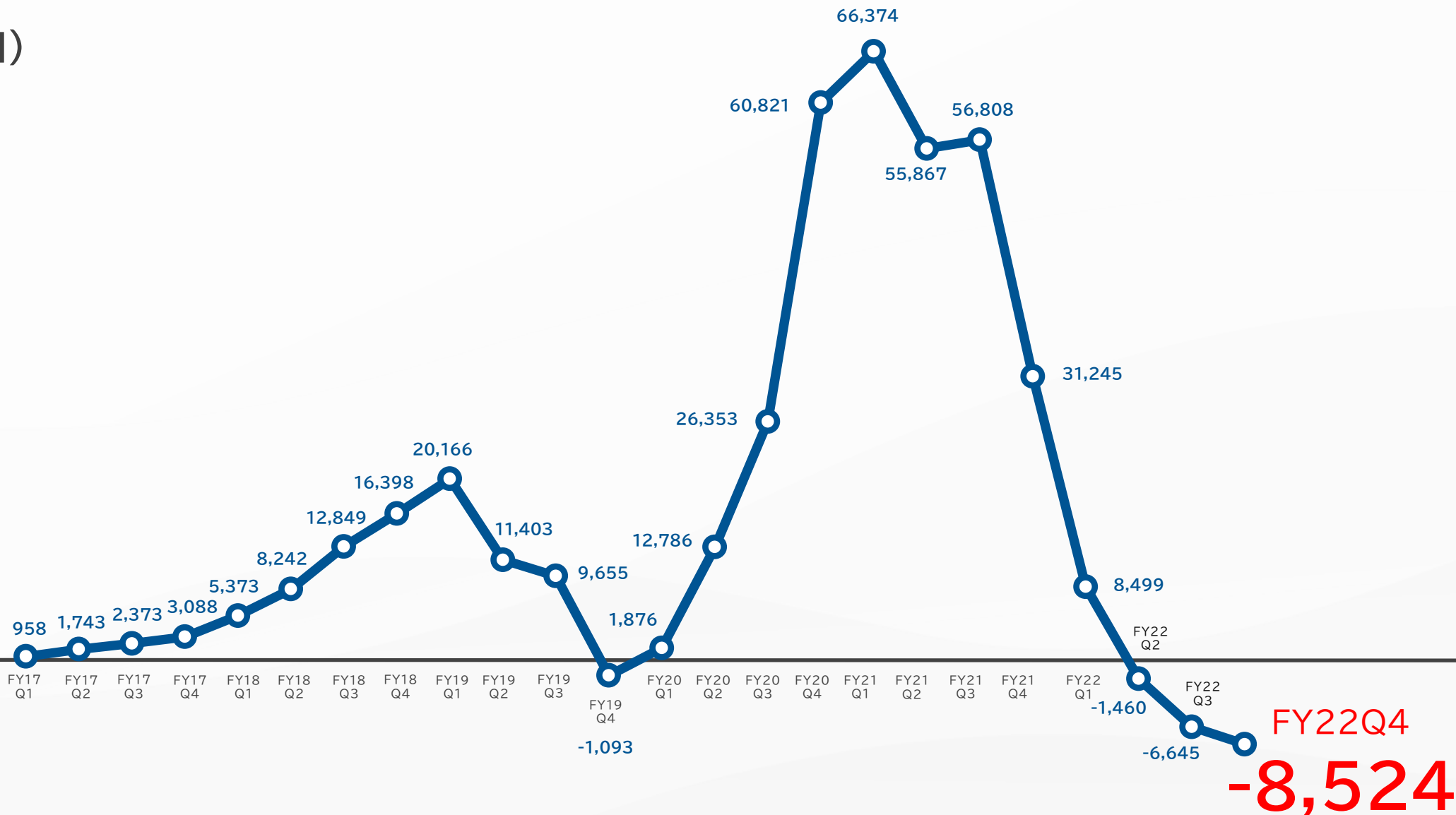
SVF1:SBIAが運営しているファン  
SVF2、LatAm Funds:SBGAが運営しているファン

SoftBank Vision Fund等(473社):'23年3月31日時点の投資先(SVF1=JV/関連会社及び全持分売却済17社を含む94社、SVF2=全持分売却済3社とPolygon(MATICトークンの購入による投資)を含む274社、LatAm Funds=全持分売却済15社を含む105社)  
SVF2:その他投資先/LP出資(23社):Full Truck Alliance、7wireVentures、WeWork、FTX US Cryptocurrency Exchange、Northstar Equity Partners V、Merantix、OurCrowd、Paradigm One、Liberty 77 Capital、Brex Venture Debt Fund、M²、非開示企業(12社)  
SVF1、SVF2、LatAm Funds間で重複投資している場合はそれぞれカウントしています。  
本スライドに記載された計画は実現することを保証するものではなく、そのような計画はすべて不確実性とリスクを伴います。本スライドに記載されている投資が最終的にSVF2、または、SBGA及びその他の当社グループ企業によって将来運用されるいかなるファンドによっても取得される保証はありません。

# 投資損益 (累計)

USDベース  
(SVF1+SVF2+LatAmファンド)

(\$ M)

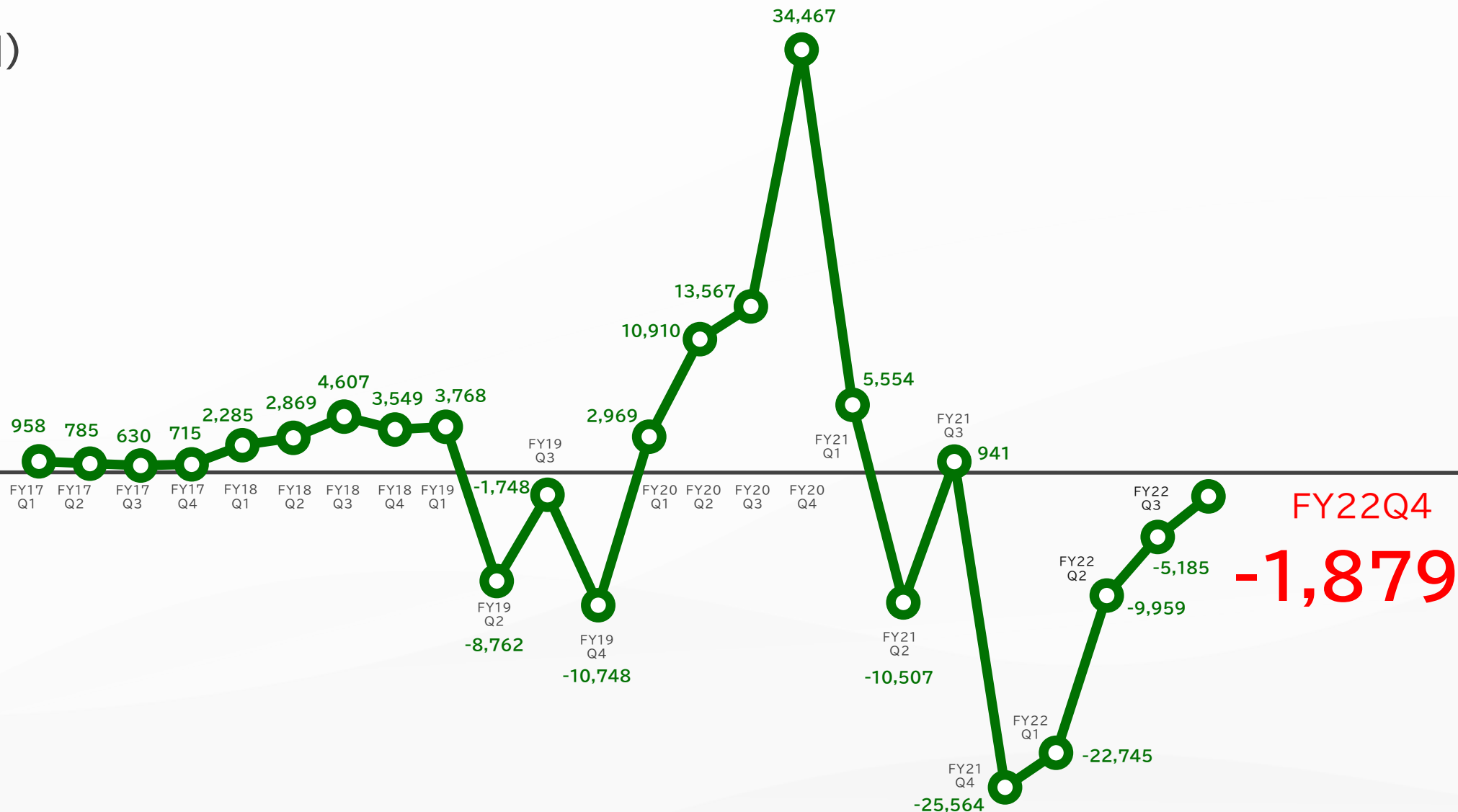


投資損益(累計):SVF1、SVF2およびLatAmファンドからの投資損益の2017年度Q1からの累計上額  
(当社連結財務諸表の作成における為替換算前、デリバティブ関連損益含む、外部投資家持分および税金等控除前)

# 投資損益 (四半期)

USDベース  
(SVF1+SVF2+LatAmファンド)

(\$ M)



投資損益(四半期): SVF1、SVF2およびLatAmファンドからの投資損益の四半期計上額  
(当社連結財務諸表の作成における為替換算前、デリバティブ関連損益含む、外部投資家持分および税金等控除前)

# SVF投資先の状況

十分な資金を  
保持

94%

12カ月以上の運転資金  
を保持している投資先

適切な  
バリュエーション

- マーケット・  
アプローチ
- インカム・  
アプローチ
- 取引事例法

上場期待

\$ 37B

レイトステージ  
投資の価値

規律ある  
資金化戦略

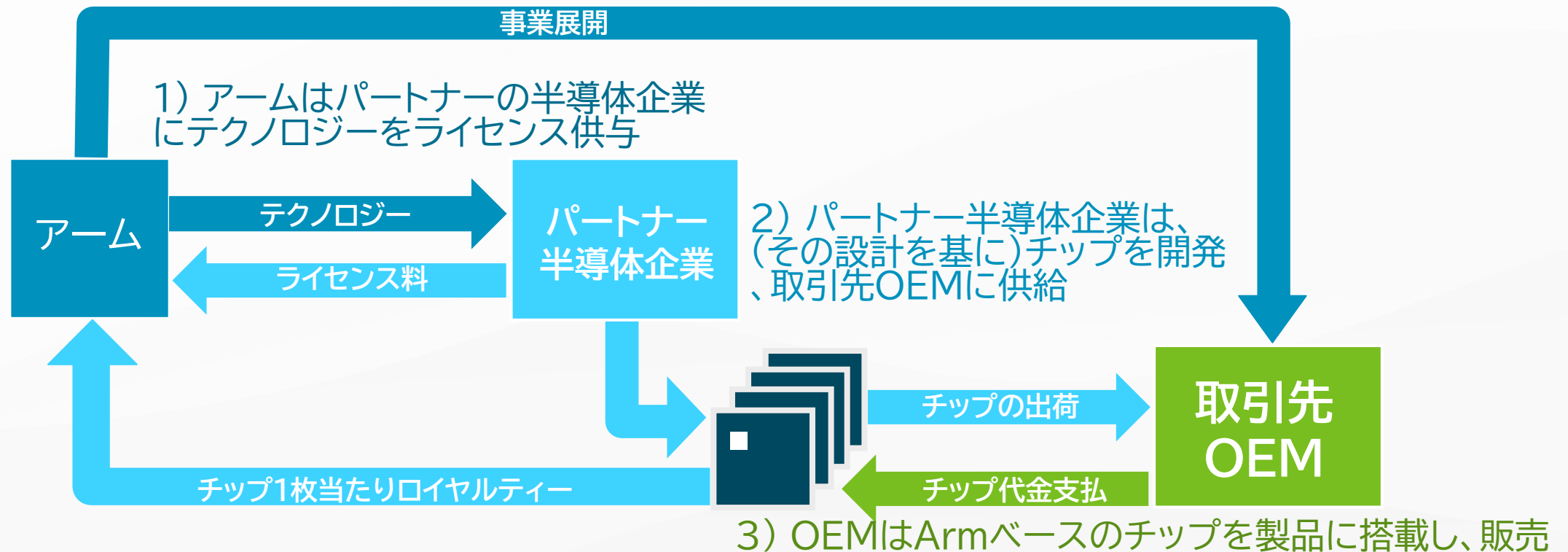
\$ 56B+

設立来の分配額

2023年3月末時点  
(出所) SBGAおよびSBIA  
SVF1、SVF2およびLatAmファンドの未公開投資先の公正価値合計のうち、12カ月以上の運転資金を保持している投資先の公正価値の割合。データが入手不可能な投資先を除く。  
レイトステージ投資の公正価値(\$37B) : SVF1、SVF2およびLatAmファンドの投資先のうち、シリーズE以降の投資先の公正価値合計。公正価値は投資額と累計投資損益(グロス)の合計  
設立来の分配金額: SVF1、SVF2およびLatAmファンドの各ファンドからの設立来の分配額合計  
本スライドはSVFの投資先の状況を説明するために例示としてのみ提供され、第三者から提供された情報に基づいて作成されたものであり、SBIAが正確性について保証するものではない。  
12カ月以上の運転資金を保持している投資先の情報は、当該投資先の将来の業績を保証するものではない。

# アームのビジネスモデル

- アームは、(チップの基盤となるプロセッサ等の)テクノロジーを開発・設計し、半導体企業にそのライセンスを供与する
- アームは、ライセンス料としてアップフロントフィーと、アームテクノロジーを用いたチップ1枚当たりのロイヤルティー(使用料)を受け取る

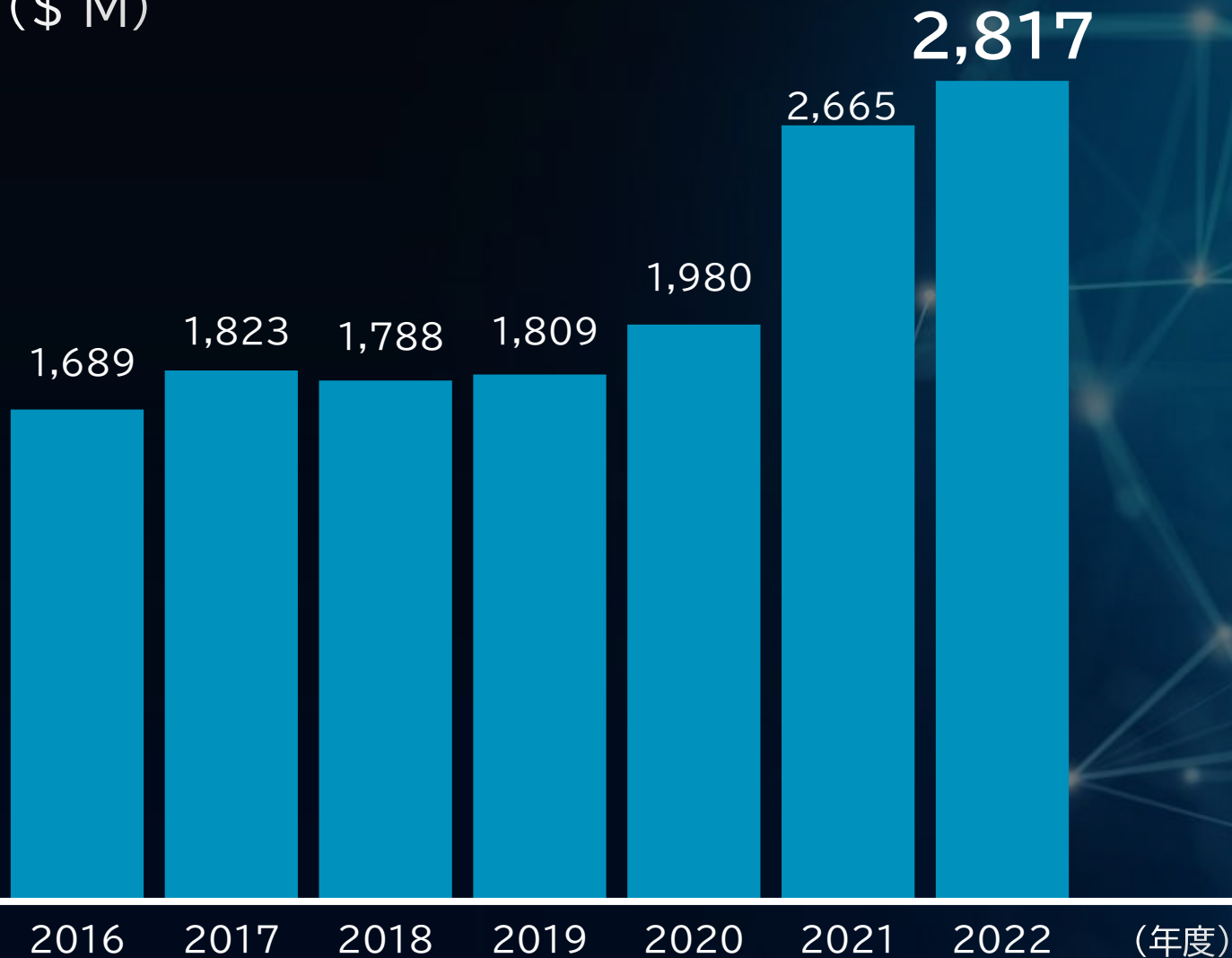




# 売上高

(\$ M)

arm



## 年平均成長率

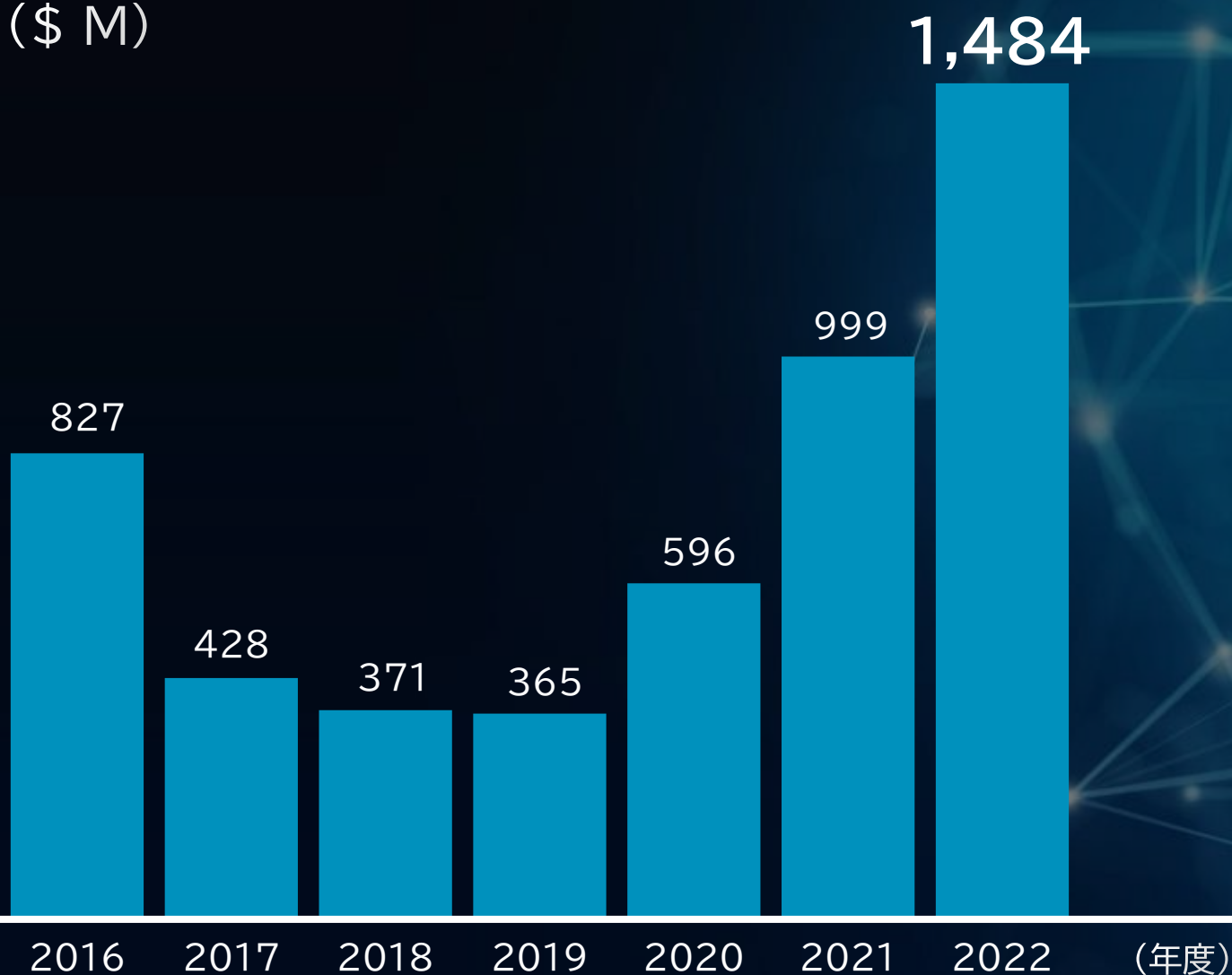
(直近3年間の実績)

# 16%

# 調整後EBITDA

arm

(\$ M)



## 年平均成長率

(直近3年間の実績)

# 60%

2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 (年度)

軸ラベル

© 2023 Arm

(出所) Arm  
2018年度～2019年度: ISG事業に係る直接費用を除く。  
2020年度～2021年度: ISG事業に係る直接費用及びISG事業に関連する本社費用を除く。  
ISG事業: Internet-of-Things Services Group; IoTIに関連するサービスグループ  
IFRSを基準としているが、完全に準拠しているとは限らない。  
全ての数字は未監査であり、方向性を示す目的としてのみ情報を提供。  
全ての数字は暫定的なものであり、変更になる可能性がある。  
SBG, SVF1, SVF1のジェネラル・パートナー又はSBIAが情報の正確性を保証するものではなく、  
情報を更新する義務を負わない。



# Arm新規株式公開プラン

# arm

Armは米国SECにForm F-1の  
登録届出書ドラフトを非公開で提出

本新規株式公開の規模及び価格帯は未決定

本新規株式公開は、市場及びその他の状況、  
並びにSECによる審査プロセスの完了が条件

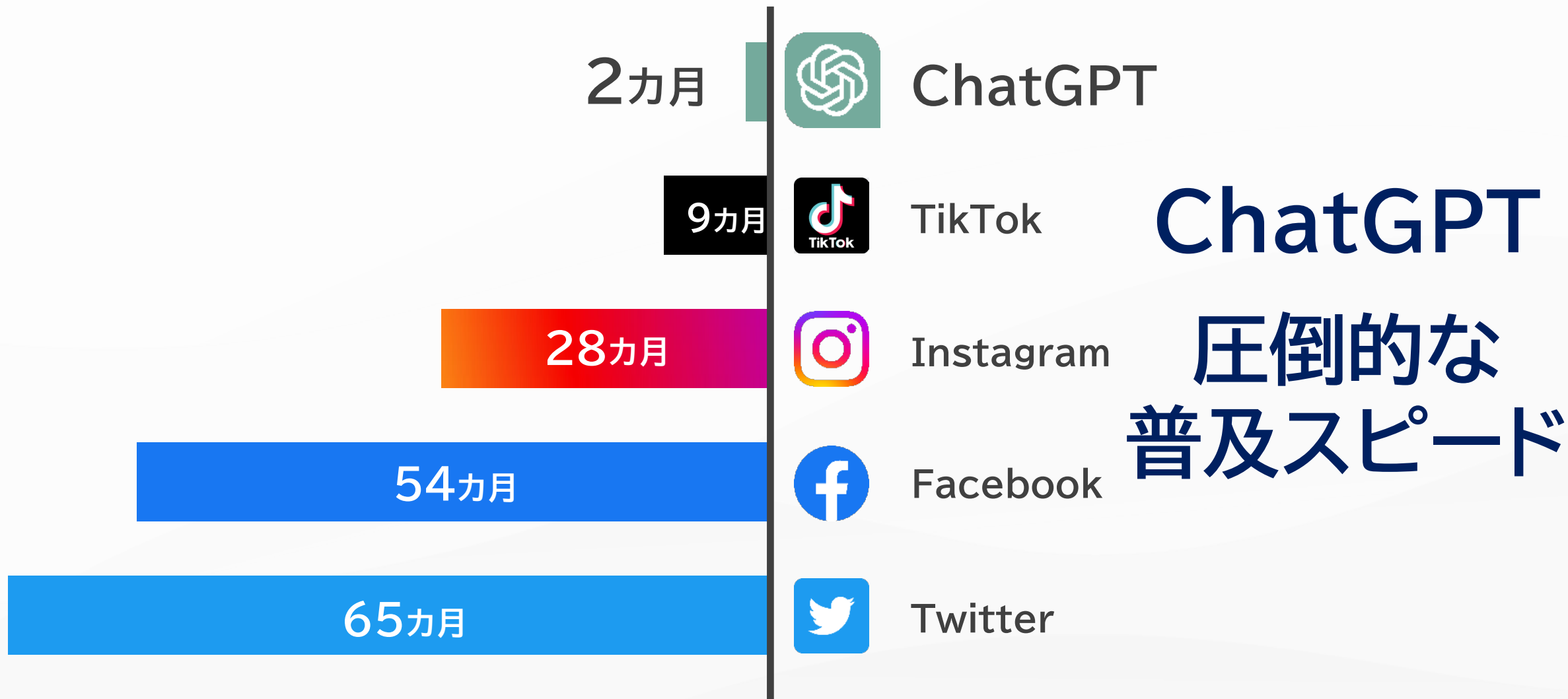
30年以内に起こるビッグデータ

SINGULARITY



データをAIで解析し  
推論する時代がやってくる  
チップは根源的役割を持ち  
人間の知能を超えることになる

# ユーザー数1億人到達までの期間





市場の  
ボラティリティに  
対する耐久力

技術の進化への  
投資機会を  
逃さない

「守り」と「攻め」の両立

# キャピタルアロケーション



バランスを  
常に考慮

\* NAVディスカウント水準も考慮事項

# 財務方針の堅持

1

通常時 LTV25%未満 で運用（異常時でも上限35%）

2

少なくとも 2年分の社債償還資金 を保持

3

SVFや子会社から 継続的な配当収入 を確保

# 格付機関とのコミュニケーション

経営陣を交えて格付機関との親密な対話を継続  
格付け機関の懸念を十分に払しょくできる財務改善をすでに実現

## 格付機関の懸念点

ポートフォリオの上場株比率が回復しない

大幅なポートフォリオ価値の下落によってLTVが悪化

ファンドからの資金回収が遅れるなか、投資が急拡大し、流動性が悪化  
投資環境は著しく悪化しており、不透明感が強い



## 当社の現状

上場株比率は、アームの新規株式公開が実現した場合<sup>\*1</sup>には大幅に回復見込み  
上場株の減少分は主に資金化によるものであり、結果、最も流動性が高い現預金が大幅増

厳しい環境下に守りを固め、LTVを11.0%へ大幅改善

投資ペースを完全にコントロールし、5兆円以上の手元流動性を確保

上場株のバリュエーションに回復の兆し

\*1 本新規株式公開の規模及び価格帯はまだ決定されていません。本新規株式公開は、市場及びその他の状況、並びにSECによる審査プロセスの完了を条件としています。  
本件に関する詳細は、「Arm LimitedによるForm F-1登録届出書ドラフトのコンフィデンシャル・サブミッションに関するお知らせ」  
<https://group.softbank/news/press/20230501>をご参照ください。



# ESGの取り組み

## —— グループ目標 ——

2030年度までにカーボンニュートラルを達成  
温室効果ガス排出を実質ゼロへ



# ウクライナ 人道危機への支援



スマートフォンを貸し出し  
通話やデータ通信を無償で提供

